

きてみんさい！

山里を活かすイキイキ美川

～すんで元気・訪れて元気～

浜田市立美川公民館

## 1 美川公民館の概要

広島県境から水面を發し動脈である周布川が流れる。支流に東地域は鍋石川、西地域は田橋川が注ぐ。その東西地域に美川東小学校・美川西小学校が昭和43年・同53年に現在の美川小学校に統合され、美川公民館東分館・西分館となる。

美川地域は世帯数879戸、人口2,011人、保育園・幼稚園・小学校・中学校が各一つ、その中心に美川公民館があり、日本海には4kmの地点に位置する。美川公民館・東分館・西分館3館が協力応援している。

## 2 事業の概要

### (1) はじめに

- ①実証事業名 「山里を活かすイキイキ美川」
- ②実証事業のテーマ 「きてみんさい！  
山里を活かすイキイキ美川  
～すんで元気・訪れて元気～」

### ③実証事業のねらい

#### ア【課題】

美川公民館に集まる体制は充実してきた。しかし分館エリア山里に集まる体制は不十分であった。高齢化が進み山里地域でつくる特産物を守り伝承したい、空き家・休耕田の荒廃により雑木草の増加、人と人のつながりを山里でも充実出来ないかなどの声が上がり、山里活性への体制づくりが課題である。

#### イ【ねらい】

組織・団体・公民館利用者・地域垣根を越えて活かし、山里に興味を持つ仕掛け創意工夫をし「つどう・まなぶ・伝える」ことで、人と人のつながりを生み、分館エリアの課題に取り組む。

さらに、旧浜田市内の90%を供給している美川の水を「地域・人・食」のつなぐ宝物として、山里を活かすイキイキ美川に活かしていく。

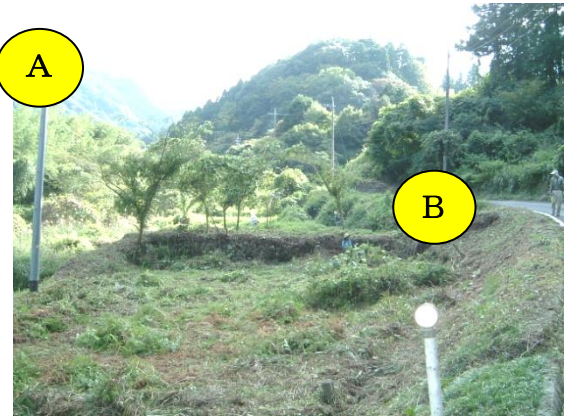
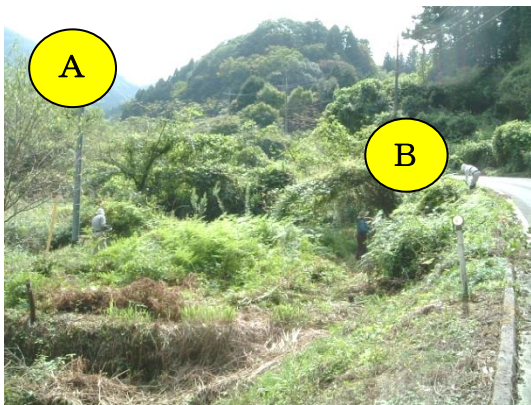
### (2) 具体的な取組

#### ①「山里を活かす会」の設立前準備会の動き

- ア 平成23年7月26日・・・職員（本館・東西分館）の打ち合わせ  
・プレゼン・モデル公民館決定・事務  
手続き完了後の会議



- イ 平成23年 8月 7日・・・東分館、運営推進委員会  
・経過説明、山里を活かす会設立準備に向けて説明（以下、ウ・エ同じ）
- ウ 平成23年 8月22日・・・本館、運営推進委員会
- エ 平成23年 8月23日・・・西分館、運営推進委員会  
・西地域の休耕田候補地決定
- オ 平成23年 8月28日・・・東、鍋石自治会会議  
・経過説明、山里を活かす会設立に向けて説明を地域住民説明  
・東地域の空き家・休耕田候補地決定
- カ 平成23年 9月 1日・・・除草剤散布
- キ 平成23年 9月 4日・・・草刈り  
・西地域候補地一部除草剤散布・草刈り
- ク 平成23年 9月 8日・・・東、櫛田原自治公民館会議  
・山里を活かす会設立準備に向けて説明
- ケ 平成23年10月 1日・・・東地域候補地を準備会有志にて作業  
・東地域候補地休耕田の草刈り、伐採  
・空き家周辺の片づけ



②「山里を活かす会」の設立後の動き

- ア 平成23年10月25日（24名）  
・山里を活かす会設立総会  
・会員43名（総会24名参加）  
・東西地域の代表・副代表を決める
- イ 平成23年11月 7日（26名）  
・焼却にてカリ肥料作成  
・焼き芋、焼き栗を楽しむ  
・新規場所草刈り・伐採





ウ 平成23年11月9日（10名）

- ・焼却にてカリ肥料作成
- ・焼き芋、焼き栗を楽しむ
- ・新規場所草刈り



エ 平成23年11月15日（2名） 平成23年11月23日（6名）

- ・西、耕運機にて耕す
- ・東、伐採木根株除去・水対策



オ 平成23年12月 5日（19名）

- ・西、玉ねぎの植え付け、オーナー制度を設け定植する。
- ・畑入口付近に水仙を植える（水仙は会員提供）



カ 平成23年12月 9日

- ・山里募集チラシ（パソコン教室月曜）作成、新聞折り込みに入れる。

キ 平成23年12月15日（4人）

- ・東、畑の一部、畝あげ
- ・マルチを張る。
- ・エンドウの植え付け予定





ク 平成23年12月26日（20人）

- ・東、道路・河川の一部（鍋石川）の清掃
- ・紅葉の苗（山里を活かす会記念樹）を100本掘る。



### 3 事業の成果と課題

#### (1) 事業の成果

プレゼン、モデル公民館決定後から東西山里地域の周知には、運営推進委員・団体ほか時間を要した。経過説明から会員募集を重ね、チラシ会員募集を行ない、東西山里地域、公民館利用者団体の賛同気運が高まった。

すでに利用者団体は友好の輪が出来ていたもので、さらなる大きな輪・絆が生まれるよう心がけた。10月の「山里を活かす会」正式発足（45名）後は、いろいろな仕掛けを東西代表と相談しながら勧めた。草木処分では「芋焼き・栗焼き」、畑作業では「手作りパン・柿おやつ」、道路・河川周辺清掃では雑木草除去、中の紅葉苗再利用は山里を活かす会「記念樹」として苗堀を行ない、山里を見る眼が変わってきた。山里を活かす「つどう・まなぶ・伝える」気持ちがつながり、作業終了後には同地権者所有果樹畑を活かそうなど活発且つ貴重な意見が出るなど、雰囲気が盛り上がった。

#### (2) 事業の課題

高齢化・気候風土・今まで培われた歴史・地域性など、町側と山里側の考え方・見方に相違点がある。反面、伝統の伝承文化を学ぶ大切なものもある。

こうした中、休耕田・空き家利用、荒廃により雑木草の増加した山に川、さらに隣接した荒廃果樹園を活かそうなど新たな声も出てきた。活性に伴う人と人とのつながり、課題も山里の声・参加者の声をつなげる場として、解決に向け創意工夫の必要性を感じた。

### 4 今後の方向性

23年度（初年度）は、周知、山里を活かす会の発足、東西地域開拓開墾、仕掛けから気運の盛り上げが主な動きだった、今後は会員の増加に向けてのPR、休耕田の活かし方、特産物の植え付け、現地にあったアウトドア講習会、参加した方々の充実感「つどう・まなぶ・伝える」を重視しながら、多方面に周知し、協力関係の強めながら地域力の強化に努める

「美川シニアサロン（パソコン教室）」99名の皆さんの約半数は、美川地域外から参加されている、周知チラシ作成はもちろん、他地域外からの山里参加の意義は大きい。楽しみ・充実感を味わうことが出来るようにしたい。